

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果を生かした授業改善について

1 学力調査等に基づいた自校の課題の分析

◆「全国学力・学習状況調査」による分析

正答率や無解答率、解答類型、四分位の割合、過去の調査結果等に着目

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果を分析

○ 「全国学力・学習状況調査 国語」の無解答率 (%) [東京都の無解答率]

問題番号	令和4年度				令和5年度
	2二	3二	3三イ	3三ウ	3二
無解答率 (%)	15.3[13.9]	20.8[17.4]	12.5[13.3]	19.4[18.5]	12.0[18.0]

→令和4年度の課題であった「解答を書かずに終わらせてしまうこと」は改善が見られた。

○ 令和5年度の「全国学力・学習状況調査 国語」結果

問題番号	学習指導要領の内容 / 正答率 (%)	本校	東京都	全国
1二	思考力・判断力・表現力等 B 書くこと	30.0	28.9	26.7
2三	知識及び技能(2)情報の扱い方に関する事項	58.0	64.8	62.0

→問題文を読み、その内容を正確に理解することは課題がある。

→与えられた情報と情報を関連付けて文章で適切に表現することに課題がある。

◆「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の効果的な分析方法の開発・実践（ア）

学習の進め方や指導方法に着目

「全国学力・学習状況調査」との相関関係を分析

○ 国語科の正答数と、都4(16)「大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。」との相関係数は【0.40】と、高い正の相関にあった。

→本校で取り組んでいる辞書引き学習が習慣化し、積極的に言葉を調べる児童ほど、国語科の学習理解につながっている。

○ 都4(8)「テストでまちがえたときは、なぜまちがえたのかを考えている。」【0.51】

○ 都10(5)「教科書やドリルの問題に取り組むなどして、学習したことを確実にできるようにしている。」【0.46】

→すすんで自己解決しようと学習に取り組んだり、学んだことを着実に身に付けるため、ドリル等を使用して繰り返し学習したりすることが国語科の理解につながっていると考察した。

国語の平均正答数	
都4(16)に、肯定的な回答をした児童	10.3
都4(16)に、否定的な回答をした児童	8.4

児童・生徒の学び方を分析

○ 都4(2)「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。」

→肯定的回答が都より6.7ポイント低い
⇒児童が自己解決しようとする意欲を高める指導

○ 都4(4)「集中して学習に取り組んでいる。」

→肯定的回答が都より4.6ポイント低い
⇒児童が集中できる授業づくり

○ 都4(13)「学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。」

→現6年生と5年生当時を比較すると肯定的回答が15%増加
⇒辞書引き学習の定着

2 課題の解決に向けた手だての明確化

学校全体で重点化や焦点化する内容を決定

◆解決すべき課題の明確化

- 学習の課題
文章を読み取り、その内容を理解し、与えられた情報と情報を関係付けて整理し、文章で適切に表現する。
- 学習方法の課題
児童がすすんで自己解決しようという意欲をもち、主体的に授業に参加できるようにする。
- 指導方法の課題
クラスの全児童が、45分間集中して授業に取り組み、自分自身で言葉を豊かにし、思いや考えをもち表現できる児童を育成する指導が必要である。

◆課題の解決に向けた手だての決定

- 昨年度から継続している、児童全員が45分間集中して取り組むことができる授業づくりを目指す「戸山スタンダード」を活用した授業を実施する。
- ・ 児童が主体的に学習に取り組めるよう、初発の感想や問いを基に学習計画を立てる。
- ・ 授業の終末には、めあてが達成できたか自己評価としての振り返りを行わせる。
- ・ 文章を読み、言葉を手掛かりに内容をイメージし、理解する力を身に付けられるようにする。
- ・ 児童の理解の状況に応じて、図に表す、教科書以外の資料を提示する等の手だてを講じる。
- ・ 全員が主体的に考え、多様な視点から理解できるよう、話し合い活動を積極的に取り入れる。
- ・ 語彙を獲得するための辞書引き学習や読書活動の充実を図る。

3 手だての実践と検証

◆授業改善の実現に向けた組織的なOJT推進の実践事例の開発（イ）

〈検証授業の実施〉

- ① 第5学年国語 教材「たずねびと」
成果：教科書以外の追加資料の提示により、叙述を基にした内容理解につながった。
課題：児童同士が関わり合って、読み深める指導の工夫
- ② 第6学年国語 教材「やまなし」
成果：児童の主体的な学習につながる学習計画が立てられた。
課題：指導内容に応じた時間設定
- ③ 第4学年国語 教材「ごんぎつね」
成果：振り返りに着目した指導法の工夫
課題：振り返りの視点を精選する。

〈検証授業の成果と課題を踏まえた組織的な授業改善OJTの実施〉

- ・ 3分科会で各1本の研究授業実施（1・4、2・5、3・6年生）
- ・ 若手教員育成のため、主任・主幹教諭による校内研修会の実施（5月2回、6月、9月、1月計5回）
- ・ 3年次までの教員による計画的な授業参観の実施

◆児童・生徒一人一人の学びに向かう力等を育む指導方法の開発・実践（ウ）

- ・ 語彙力の少ない児童が、物語の様子をより想像しやすいように、写真資料や音声が入った電子紙芝居を用意することで、言葉の意味を理解しながら読むことができた。
- ・ 文章量が多い教材では、「読む」時間を多めに設定するとともに、児童が、分からない言葉や気になる言葉を短冊に記入し、掲示して全員で共感しながら学習計画を立てられるよう工夫した。自分が知りたいことが学習計画に入ること、授業に主体的に参加する様子が多く見られた。

◆効果的な家庭学習の指導事例の開発（エ）

「教科書やドリルの問題に取り組むなどして、学習したことを確実にできるようにしている。」など意識の高い児童ほど、全国学力・学習状況調査の正答率が高い傾向がみられた。学習した内容を確実に身に付けさせるためには、家庭学習など様々な場面で「繰り返し学習」を行うことが本校の児童の実態に適していると考え指導している。